



●駒形神社



●蒼龍寺

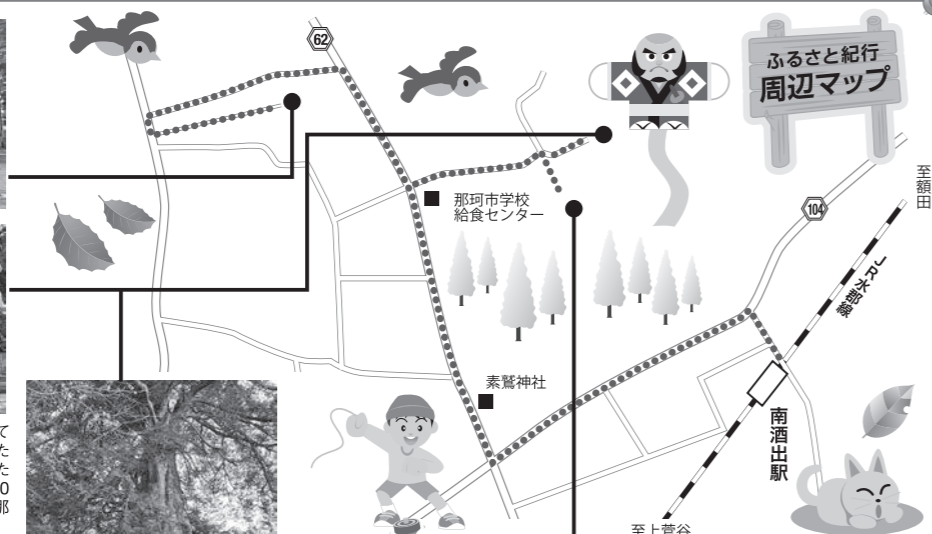
元弘元年(1331年)に臨濟宗のお寺として開山。後に徳川光圀公の命で廃寺となったが、元禄年間に水戸市の千波湖畔にあった蒼龍寺がこの地に移転してきた。樹齢500年といわれるカヤの大木は、昭和49年に那珂市の文化財に指定されている。



コースは季節を問わず楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症拡大等の状況を考慮しながら、散策をお楽しみください。



●蒼龍寺のカヤ



ふるさと紀行
周辺マップ

●南酒出城跡



蒼龍寺の入口には南酒出城跡の説明板(写真右)がある。南酒出城はI郭、II郭、III郭、IV郭、蒼龍寺のあるV郭で構成され、I郭の北側、II郭の西側の壕は屈曲し、横矢掛かりとなっているのが独特。蒼龍寺があるV郭は三の丸にあたる。



Vol.130

駅からのふるさと紀行 JR水郡線

みなみ さか いで

南酒出駅

かみ すが や ぬか だ

上菅谷 額 田

●今回は2月26日
掲載予定です。

※イラストはイメージです。



●JR水郡線の分岐点

上菅谷跨線橋から臨むJR水郡線。まっすぐ進むのが南酒出や常陸太田方面へ向かう線路。水郡線は明治30年に太田鉄道として水戸駅-久慈川駅間で開業した。上菅谷駅から常陸大宮駅まで開業したのは大正7年。



広告

●ホームは単式で1面1線



●杉街道路切側から見たホーム



●ホームには屋根付きのベンチがある

駅名も語る歴史の地
城跡から古の時代に思いを馳せる
JR水郡線南酒出駅は、上菅谷駅から常陸太田市方面に分岐してからの最初の駅。分岐地点で郡山方面に向かう線路が大きくカーブするのに対し、常陸太田方面に向かう線路はまっすぐに伸びており、水郡線の歴史が垣間見える。
昭和10年の開業時は、常陸酒出駅の名称だった。16年に営業を休止したが、28年に営業を再開し、この時に現在の駅名となった。
ホームは1面1線で、屋根のあるベンチだけが設置された簡素な無人駅。ロータリーや駐車場、駐輪場などはなく、ホームへは額田駅側にある杉街道踏切から入る。
地域はかつて佐都西郡酒出郷と呼ばれ、那珂台地から久慈川方面を見渡せる場所。駅の近くには南酒出城跡がある。南酒出氏を名乗った佐竹義茂が鎌倉時代に築いたという説や、戦国期の額田城攻略のために築かれた付城・向城であるという説がある。

● 散策コース ●

まずは駅から県道104号を通過して南北酒出の鎮守・駒形神社へ。保食神(うけもちのかみ)をまつる神社の本殿は彫刻が美しく、那珂市の指定文化財にもなっている。本殿は県道から近いが、少し先にある鳥居まで歩き、大木が並ぶ参道からじっくりと楽しみたい。境内は御神馬殿や駒形大神の塚、古木など見所が多い。

次はカヤの大木で有名な蒼龍寺へ。日照り続きで困っていた時、竜になって雨を降らせた竜和尚の伝説が名称の由来と言われる。参道の左側にある樹高約18m、根まわり約9mの天然記念物

は偉容。本堂前にはシダレザクラがあり、こちらも銘木として人々に親しまれている。

蒼龍寺は南酒出城跡への入口になっている。説明板があるので、じっくり読んでから散策したい。城跡は現在、山林となっているが、土塁や空堀がしっかりと残っており、城跡愛好家からの評価が高い。こうした地域資源を後世に伝えようと、地元の有志が集い、整備に取り組んでいる。案内板の設置や木道の整備、危険箇所へのロープ張り、伝説のある場所の紹介など、訪れた人が安全に楽しめるよう、地道な努力を続けている。城の遺構からいしえの時代に思いを馳せるとともに、地域の人々の熱意もしっかりと感じたい。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp